

# 2017, 2019, 2020, 2022 年度岩木健康増進プロジェクト健診に ご参加いただいた皆様へ

下記の研究に用いるため、皆様の情報を利用させていただきますので、お知らせいたします。

**研究課題名：** 性ホルモンおよび脂肪由来因子が変形性膝関節症の進行に与える影響

## 研究の目的

この研究は、血液に含まれるホルモンや脂肪に関わる成分が膝の痛みの悪化にどのような影響を与えているかを調べるものです。もともと体の中にある性ホルモンには軟骨を守る働きがありますが、これが減ってしまうことや、逆に脂肪細胞から出る物質が炎症を引き起こすことが、膝の軟骨をすり減らす原因になると考えられています。そこで今回の調査では、年齢や肥満といった要因の影響を取り除いた上で、血液中のホルモンや脂肪由来の物質がどれくらい膝の関節の変形と深く関わっているのかを詳しく分析します。このようにして、ホルモンや代謝のバランスが膝の病気を進める独立した原因になっているのかを明らかにすることが、この研究の大きな目的です。

**研究実施期間：** 実施許可日 ～ 2029年 3月 31日

**対象となる方：** 2017, 2019, 2020, 2022 年度の岩木健康増進プロジェクト健診に参加された方

## 利用させていただきたい試料・情報について

以下の情報を研究責任者である石橋恭太の責任の下、標記研究課題実施のために弘前大学内で利用します。

今回の調査では、先行研究「岩木地区住民における健康調査およびこれに基づく疾患予防法と予防法の開発（承認番号：2021-030, 2020-046-4, 2020-046-1, 2021-166-3）」において取得されたデータを使用し、血液中の性ホルモンや脂肪から出る物質の量、膝のレントゲン写真による評価、年齢や体格、さらに運動や喫煙といった生活習慣の情報を組み合わせ詳しく分析します。解析の対象は、ホルモン療法を受けている方やリウマチなどの持病がある方を除いたグループに絞り、まずはそれぞれの成分が膝の痛みの度合いとどの程度関係しているかをシンプルに調べます。その上で、年齢や性別、太り具合などの影響を統計的に調整した高度な計算を行い、ホルモンや脂肪の物質が膝の状態に直接的な影響を与えているのかを突き止めます。さらに、単に太っているかどうかだけでなく「太り具合によってホルモンの影響力が変わるのか」といった複雑な関係性についても、数式を用いて検討する予定です。最終的には、膝の病気があるかないか、あるいは時間の経過とともに悪化したかどうかを結果として捉え、統計学的に確かな根拠があると言えるかどうかを厳密に判定します。

(使用データ)

個人記録票、健康調査票、体組成、骨密度、血液・尿、アンケート、単純 X 線、膝関節 MRI、膝関節エコー、身体診察、膝関節超音波検査

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。そのため、本研究により個人に還元する臨床的意義のある結果は得られないため、個別の結果については原則としてお答えできません。

研究への利用に同意いただけない場合には、「**情報利用提供停止願**い」をご提出ください。受領後、その方の試料・情報を対象から除外します。ただし、ご連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない方／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

<b>本件連絡先</b>	弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座 助教・石橋恭太 住所 〒036-8562 青森県弘前市在府町5番地 電話 0172-39-5083 Email kyota.i@hirosaki-u.ac.jp
<b>情報利用停止願送付先</b>	弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス 研究センター 医療データ解析学講座 教授 玉田 嘉紀 住所 〒036-8562 弘前市在府町5 電話：0172-39-5037(代表) FAX：0172-39-5205